

令和元年度事業報告書

(事業の概要)

1 研究助成事業

(計画) 薬力学の研究に従事する若手研究者に対する研究費の補助として総額400万円(4名から5名)を助成する。

毎年、ホームページ上に募集要項を公開し、研究助成金交付対象者の公募を行っている。

選考方法は、審査委員による応募書類を審査のうえ審査委員会を開催し、結果を理事会に報ずる。

理事会は当該報告を受けて、助成対象者を決定し、助成金を授与する。

(内容) 今年度より、若手研究者(4月1日現在で40歳以下)を対象とした募集要項の見直しを行い、更に審査体制の強化(4名から2名増員し6名)を図った。

募集要項は令和元年8月1日から令和元年10月31日まで、ホームページ上に公開したうえで、医・歯・薬学系の学部を有する、全国の国公立大学の研究支援・産学連携部門・広報部門等へメール等でお知らせした。

その結果、26名の応募者があった。

令和2年1月22日審査委員長より理事長あてに審査結果報告があり、令和2年2月4日臨時理事会において、下記4名に各100万円の助成金を授与することを決定した。

・柴田 翔(東京医科歯科大学大学院 統合呼吸器病学分野 特任研究員)

研究題目 「慢性閉塞性肺疾患の病態における間質マクロファージの役割」

・安藤史顕(東京医科歯科大学 茨城県腎疾患地域医療学講座助教)

研究題目「新規PKA制御法による疾患治療への応用と治療薬の開発」

・佐藤和秀(名古屋大学高等研究院・大学院医学系研究科病態内科学講座呼吸器内科 S-YLC 特任助教)

研究題目「光による腫瘍不均一性の克服と機序解明」

・加納嘉人(東京医科歯科大学 臨床腫瘍学分野がんゲノム診療科特任助教)

研究題目「三次元培養を用いたKRAS変異固形癌に対する標的治療基盤の構築」

なお、助成金は、受賞者所属大学の寄附金受入規程に則り、名古屋大学へは令和2年3月10日振込手続きを行い、東京医科歯科大学へ3名分を令和2年3月12日、各々振込手続きを行った。また、令和2年2月18日の理事会終了後に研究助成金授賞式を佐藤理事長より受賞者4名のうち出席者東京医科歯科大学の3名に対し研究助成通知書の交付を行い、欠席された名古屋大学の受賞者については研究助成通知書を郵送した。

2 学術講演会等の開催及び助成事業

(計 画) 薬力学に関する学術講演会、研究討論会を開催し及びそれらに対する補助として、11万6千円(学術講演会等開催費・助成金3万円、特別講演謝金1名分5万6千円、交通費1万円、会場借料2万円)を助成する。

毎年、一般の方が関心のある社会的なテーマを定め、当該テーマに則った講演会を、年1回開する。

開催場所、時間帯も一般の方が受講しやすいよう考慮し、概ね30名から50名程度の受講者を想定し、開催の周知は、ホームページ上での案内、学内のポスター掲示等により行っている。受講は無料としている。

また、時宜を得た学術研究のテーマなどに関する講演会及び研究討論会への助成を行う場合もある。

(内 容) 今年度は、自開催の講演会を令和2年2月18日(火)18時00分から20時00分まで、お茶の水医学会館9階大会議室にて開催した。

特に当研究会所在地域の方の参加を呼びかけポスターの配布を行った。

なお、講演内容は、

(特別講演)

朝田 隆氏(医療法人社団創地会理事長 メモリークリニックお茶の水 院長)

演題:「アルツハイマー病ナウ」

(研究助成金受賞講演)

福島啓司氏(東京医科歯科大学 腎泌尿器外科学分野 助教)

演題:「尿路上皮癌において免疫チェックポイント阻害剤の有効性を高める治療戦略」

工藤 篤氏(東京医科歯科大学 肝胆膵外科学 准教授)

演題:「バイオインフォマティクスを用いた網羅的遺伝子解析による新しいバイオマーカーの開発」

の3講演を行った。各講演後、活発な質疑応答が行われた。

また今回の参加者は42名、そのうち約半数は東京医科歯科大学以外の参加者であった。

講演会終了後、演者を囲む会を催し講演会の在り方及び次回開催に向けて意見が交わされた。

3 献体業務助成事業

(計 画) 薬力学の進歩発展のために、医学教育及びこれらに関連する献体業務に対し30万円を助成する。

この助成は、医学教育に欠かせない人体解剖実習に必要な献体業務への支援であり、医療人教育に貢献している。さらに、不特定多数の利益(健康増進と医療内容の向上)に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる事業である。

助成の実施に関しては、東京医科歯科大学より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定している。

(内 容) 今年度は、令和元年11月26日、東京医科歯科大学に対し、30万円の助成を実施するとともに、大学の献体の会事務局を通じて篤志解剖全国連合会の会費支援等を行っている。

4 教育助成事業

(計 画) 東京医科歯科大学大学院の教育の充実を図ることで薬力学の進歩発展に寄与するため、16万円を助成する。

当該大学院に対し助成する。この助成は東京医科歯科大学大学院を支援、充実させることにより、優秀な研究者を輩出し、研究の進歩、高度化を図ることを目的とする。このことは不特定多数の利益（健康増進と医療内容の向上）に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる。

助成の実施に関しては、東京医科歯科大学より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定する。

(内 容) 今年度は、令和元年10月8日、東京医科歯科大学に対し、16万円の助成を実施した。

5 学術出版助成事業

(計 画) 医学教育、医学研究、診療の研究に関する出版物（雑誌）の刊行に対し30万円（特別寄附金）を助成する。さらに、特定寄附金を募集し、同刊行物への補助として250万円を助成する。

この出版物刊行への助成を通じて、学術的知識の集成と周知を図り、医療人の育成に貢献する。このことは、不特定多数の利益（健康増進と医療内容の向上）に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる。

また、当該出版物（雑誌）は東京医科歯科大学のホームページ上で誰でも無料で閲覧できる。さらに、広く地域医療に携わっている開業医及び勤務医に対しても同窓会組織を活用し配布している。このように広く一般に利用できることから学術の振興に貢献していくものとなる。助成の実施に関しては、東京医科歯科大学お茶の水医学会（「お茶の水医学雑誌」発行）より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定する。

(内 容) 今年度は、平成31年4月11日お茶の水医学雑誌編集委員長より当雑誌発行に伴う助成金の申請を受け審査を行い理事会の承認を受けたが、その後、お茶の水医学雑誌編集長より雑誌内容の見直し等再検討するなど、諸般の事情により当該年度においては発行を見合わせ、併せて助成金の申請取下げがあり、その旨を理事会に報告し、今年度は本助成事業計画を休止とした。

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和2年6月
公益財団法人薬力学研究会